

# 小回りの効く 地域密着型 TMR センター

宮城県／広域 TMR センター・アップル

宮城県の県南地域を中心にフレッシュ TMR を製造・販売する広域 TMR センター「アップル」。同センターは地域密着型であることと、小回りの効く顧客中心型の運営で成功している。



## ※顧客ごとに異なる TMR メニュー※

アップルで製造する TMR は日量 7t。6軒の酪農家へ毎日 TMR を供給している。「TMR 給飼にしたいが、設備投資が高くて…」と考える酪農家にとって、アップルのような広域 TMR センターは重要な存在となる。

アップルの指揮を執る(株)富士飼料・津田宗彦ファームアドバイザーは、「基本的なメニューは

### ユーザーの声

佐藤 護 さん



TMR メニュー	35 kg/頭
配合飼料	12.6 kg
大豆	1 kg
豪州オーツ・ブレ	1.5 kg
ルーサン (USA)	7 kg
※RFV180 以上 CP21 以上指定	
ビートパルプ (USA)	2.5 kg
糖蜜	
カーフマンナ	0.3 kg
合計	24.9 kg
※別途、ソルゴー給与	

### コメント

- ・毎日同じ TMR (加水フレッシュ) が配達されるため、牛たちもストレスなく食べてくれます。
- ・ルーサンベースの TMR なので、2種類のロットをまぜるようお願いしています。
- ・ほぼ同じ時間に TMR が配達されるのでスケジュールが組みやすく、大変助かっています。
- ・空いた時間に牛舎のメンテをするなどして、カウコンフォートの改善ができます。
- ・TMR の成分が安定しているおかげで、乳質、乳成分も安定しています。
- ・日々、生産コストについて、津田さんと相談しています。

同一ですが、それぞれの希望に合わせて配合割合を変えて対応しています」と言う。広域 TMR センターとして、はめずらしい個別メニューを実現していることは大きな特徴だ。

基本設計は泌乳量 35kg/日の設計。ルーサンを中心としたメニューだ。粗飼料も配合飼料(協同飼料(株)製造)も、富士飼料が扱う原料を利用し、もちろん基金の対象にもなっている。

## ※安全・安心のために※

アップルは「新鮮・安い・安全・安心」をモットーとしている。それを実現するために「アップル心得」を用意した。そのなかに「アップルは、乳牛の食品工場である」と明記し、迅速かつ正確な製造、整理整頓など安全・安心な TMR を供給するための理念が書かれている。

実際にセンターを訪ねると、整理整頓されていることはもちろん、清掃が行き届き衛生的に管理されていることがわかる。

## ※購入 TMR の もう一つのメリット＝時間※

津田氏は「一般的な規模の酪農家では TMR 調製をすると、いろいろな仕事をしながらになるので、2時間はかかるでしょう。われわれに委託してもらえれば、その時間が浮くことになります」



地域密着型の TMR センター「アップル」外観

「乳牛の食品工場」と自負するアップルは、整理整頓と清掃を徹底する



TMR の製造と配送を担当する佐藤慎也さん(左)、渡邊健吉さん(中央)、佐々木上さん(右)

と、もう一つのメリットを話す。浮いた時間は他の仕事に使え、効率的というわけだ。

## ※コストダウンの徹底※

アップルの経営理念は「現状打破で生産者の豊かな経営を目指す」。もちろん生産者にとって購入する TMR が高ければ、この理念は絵に描いた餅になってしまう。そこでアップルではコスト削減を徹底して、販売単価を少しでも安くできるよう努めている。

まずは TMR 原料を統一することで、各原料の仕入れをまとめること。その結果、仕入れロットが大きくなり、単価を引き下げることができる。

二つ目は完全自社配送。毎日の TMR 配送は社員が行っている。「運送会社へ委託すると、どうしてもコスト高になってしまう」と津田氏。

三つ目は徹底した在庫管理。「これくらいは良いだろうは No good」と前出の心得にも明記し、社員にもコスト意識を持たせている。

## ※毎日同じが大切※

アップルの TMR にはビール粕以外の粕類が使われていない。その理由を「毎日同じものを提供したいから」と津田氏は答える。粕類はどうしてもロットごとの品質のばらつきが避けられない。乳牛の「食品」と考えると、「毎日同じ成分で、同じ嗜好性、同じ量の TMR を給与することが大事」と考えているからだ。

\*



6 農家・6 種の TMR を調製するミキサー



配送はこうしたコンテナを利用して行う

地域密着型の TMR センターとして、アップルでは地域の酪農家を対象とした勉強なども今後、開催していくという。近隣の酪農力をあげて活性化につなげたい考えだ。

(取材＝前田朋)

### ユーザーの声

大槻 徳夫 さん



TMR メニュー	35 kg/頭
配合飼料	11.3 kg
大豆	1 kg
豪州オーツ ロープレ	3.3 kg
ルーサン (USA)	6.2 kg
※RFV180 以上 CP21 以上指定	
ビートパルプ (USA)	2.8 kg
糖蜜	0.15 kg
カーフマンナ	0.3 kg
合計	25.05 kg

### コメント

- ・TMR の加水が牛の喰い込みに応じて自由に変えられるので助かります。
- ・平均乳量が 40kg になることもあり、喰い込める TMR が必須です。
- ・購入 TMR には、低価格なのが大きなメリットです。
- ・給餌の前の餌槽掃除は 1 時間かけ、腐敗を極力防いでいます。
- ・繁殖についても、良好です。